

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2012年5月1日

104号



パンタナール開拓基地の整備進む

今年の川の水位の上がり方は、この10年になかった上昇でしたが、かろうじて周りに堤防を作ることにより、この写真の基地は、水没を免れました。しかし、今度は雨季になっても9月～11月と雨量が少なく、川の水位が異常に下がり、一月頃は大型バージ船などの航行が一時中断された程でした。

12月以降は順調に雨が降り続き、現在は大分水位も上がり、川幅も広がって船の航行は自由になっています。自然と如何に共生するかが人間の課題ですが、そうした中でパンタナールの生き物たちは躍動しているのです。洪水対策で土手を盛った滑走路や道路も整備されました。

＜参考＞降雨量 2011年11月56mm、12月136mm

2012年1月118mm、2月131mm、3月182mm

◎上記写真は、3月3日ミリタリー機の窓越しに撮ったもので霞んでいるのが残念ですが、様子を知って頂けることはできるかと思い、掲載しました。（飯野記）

写真説明：左が北、右が南の下流オリンポ方面です。川は上が本流、岬から下が支流です。真ん中水平の直線ラインが滑走路です。パクの養殖池は、岬に三ヶ所、真ん中の赤い屋根（修練所）の右側に4ヶ所あります。本流の上は（東側）ブラジル領です。

冷凍庫がバックアップ

中田所長のもと設置が進められています。肉から魚への食生活は、健康志向とともにパラグアイでも人気が出ています。海のいいおいしい魚の養殖です。その筆頭がパクであり、まいナマズ系のスルビです。アスンシオン



が態で獲すれ丸のcmはケパの
が高品のがてごパぐ、ッ
目段状響乱ま売がい0でー

牧童小屋と豚舎も整備

牧童小屋が、奥地に建設されました。牛の健康管理からも、野生動物からの危害を防ぐ上にもどうしても必要なものです。昨年だけでも30頭の子牛達がチグレに襲われました。

また一方、豚ランドの整備が進められています。第二の豚舎です。特に、豚は健康そのもので、自然の中での放牧で、栄養豊かな水草や木の実、カニや貝など何でも食べています。最近では日本でも、窮屈な豚舎でぶくぶくと太らせるだけの飼育から、放牧方式の養豚が注目を集めています。またこの肉は、訪問者からも高い評価を得ています。

新しい豚舎には14の部屋があり、餌の管理倉庫や、出



(上) 広い牧場を支える牧童ハウスも建設中
(下) 第二豚ランドもきれいに整備



産前後の母豚と子豚が使用する部屋。また、豚の糞尿は水で流されて浄化槽にたまり、農作物の貴重な肥料へと生まれ変わっていきます。

(左) 糞尿処理用の側溝から、浄化槽へ

アルトパラグアイ州の警察本部長一行が訪問

21日に、アルトパラグアイ州の警察本部長と随行員4名が車で、レダを訪れました。州内の巡回プログラムの一環としての訪問で、レダには立派な警察署があり、レダの開拓ビデオなどを見て理解を深めました。

本部長は、これからの活動に期待すると熱心に視察をしていました。



パンタナールの保全

南米の秘境世界遺産パンタナール大湿原の位置は、ボリビア・ブラジル・パラグアイの三カ国にまたがる、広大な湿地帯です。面積は日本の本州がすっぽりと入るほどです。ここには、多種多様な動植物が生息し、希少種の数も多いのですが、特に絶滅危惧種も多く、これからが心配されているため、私たちもパンタナール保全に力を注いできました。

パンタナールは鳥類665種、魚類262種、ほ乳類95種、は虫類162種、両生類40種もの動物を育む生命の楽園と言われています。パンタナール大湿原（約14万平方Km、雨期は23万平方Km）は、南米大陸中央部にまたがって広がる海拔高度80mから150mの広大なくぼ地です。



パンタナールの南北を流れる主要河川パラグアイ川（全長2,621km）は、北から南へ1Km当り1-2cmの傾斜しかないことに加えて、東西に広がるその支流網も東から西へ1Km当り40cmほどの傾斜しかありません。そのため、パンタナール周辺に降り注いだ雨水はその領域内を網羅する支流から数ヶ月かけて



ゆっくりとパラグアイ川に吸収されます。それと同時に並行で数ヶ月から半年をかけてパラグアイ川の水はゆっくりゆっくりと南へと流れて行きます。このように、南米大陸中央部に降り注いだ雨水の受け皿のような役割を果たすことで広大な湿原を形成しているのがパンタナールなのです。（Pantanal=パンタナールは、ポルトガル語で「大湿原」という意味。）

レダで見つかっている絶滅危惧種の一部
(上) カピバラの家族 (左) メガネカイマン
◎下の写真①オオアリクイ②アルマジロ
③ティグレ④アナコンダ⑤ズグロハゲコウ
(トゥユ) ⑥ケブラッチョ（釘もはねのけるほどの固く重い樹です）



第12回国際協力青年奉仕隊員募集



第12回国際協力青年奉仕隊員募集要綱

●期間：2012年8月25日（土）～9月10日（月）

8/24（金）：オリエンテーション・研修を行います。

8/25成田発

後日、参加決定者にスケジュールの詳細を通達します。

●活動場所：パンタナール地域：マリア・アウシリアドーラ村、レダ基地、エステ市近郊

活動内容：マリア・アウシリアドーラ村における植樹と学校校舎修理等

生徒代表等と植樹及び学校を中心として村と文化交流、

レダにて奉仕活動、自然探訪、学習会、乗馬、釣り体験、世界遺産訪問

●参加資格：18歳以上25歳まで（健康に自信のある男女）

●参加条件 ①小論文（400字以内）提出

テーマ：「参加の動機及び将来の夢」 提出期限：6月30日

提出先：南北米福地開発協会（FAX・Emailも可）

②小論文に各紹介者の推薦文を添付すること。（希望者は事務局に用紙を要請してください）

●合格発表：7月5日 当会で審査の上、直接該当者に連絡致します。

●募集人数：8～10名 ●参加費用：15万円

成田ーアスンシオン往復航空チケット代、海外保険代金、レダ滞在費等、は主催者負担。

（小遣い、家から成田までの往復費用などは個人負担）

●申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局 担当：戸石

TEL：044-829-2821 FAX：044-829-2820 Email：office@asd-nsa.jp

地球家族として
自然を守りましょう

南北米福地開発協会

会員募集中

南米、パラグアイパンタナール地域
へのエコツアーならびに植林活動
を通じて
生態系の維持と強化を促進し、その
地域をモデルとし、
世界に環境保護の大切さを
訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒221-3100

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

電話 〇四四-八二九-二八二二

Fax 八二九-二八二〇

会費納入 郵便口座

一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

Eメール office@asd-nsa.jp

ホームページ http://www.asd-nsa.jp